

■施設配置比較検討表（熊ヶ畑地域）

	A案 (活性化センターとの連携による熊ヶ畑の魅力UP)	B案 (熊ヶ畑をアピールする地域のランドマーク)	C案 (個々に伝える熊ヶ畑の魅力)
配置イメージ			
特徴	・1つの建物に機能を集約し、動線を省略、山田活性化センターとの連携を重視した案	・1つの建物に機能を集約し、広場イベントをメインとした案	・目的別で建物を分け、食をメインとした活性化センターとの連携を主とした案
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴施設やレストランなどの機能を1つの建物に集約した案 ・建物は既存の山田活性化センターとの連携を考慮し、計画地西側へ配置する [配置施設]：温浴施設(レストラン/公民館含む)、広場(駐車場)、屋外トイレ [駐車場台数]：普通車(52台)、車いす使用者駐車場(1台)	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴施設やレストランなどの機能を1つの建物に集約した案 ・広場を中央に配置し、イベントを中心とした活動に特化する [配置施設]：温浴施設(レストラン/公民館含む)、広場(駐車場)、屋外トイレ [駐車場台数]：普通車(52台)、車いす使用者駐車場(1台)	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴施設とレストランを別棟で整備する案 ・レストランは連携を考慮し、山田活性化センターの隣に配置する [配置施設]：温浴施設(公民館含む)、レストラン、広場(駐車場)、屋外トイレ [駐車場台数]：普通車(52台)、車いす使用者駐車場(1台)
既存施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化センターとレストラン(温浴施設内設置)が近接するため、食材の加工、提供等の一体的な活用、温浴施設を含めた円滑な連携が可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活性化センターとレストラン(温浴施設内設置)との距離があるため、食材の加工、提供等における一体的な活用を含めた施設間の連携が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 活性化センターとレストランが近接するため、食材の加工、提供等の一体的な活用が可能となる一方、温浴施設とは距離があるため、連携が難しくなる可能性がある。
利用面	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴施設とレストランが同じ建物内にあるため、連携した活用による相乗効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温浴施設とレストランが同じ建物内にあるため、連携した活用による相乗効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温浴施設とレストランが離れているため、各施設の利用者による相乗効果が見込めない。
管理面	<ul style="list-style-type: none"> ・機能が1つの建物に集約されているため、管理がし易い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機能が1つの建物に集約されているため、管理がし易い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物が別棟となっているため、個々で管理が必要となる。
広場利用	<ul style="list-style-type: none"> ・一定のまとまった広場空間を確保できるため、各種イベントに合わせた利活用が可能である。 ・施設への客層と広場への客層が分けられることにより、安全性にも優れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一定のまとまった広場空間を確保できるため、各種イベントに合わせた利活用が可能である。また、広場が計画地中央部に配置されることで、他の施設からの利用や駐車場からのアクセス性にも優れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広場の形状により、イベント時に活用しづらい可能性がある。